

大山崎ふるさと
ガイドの会だより

第156号

発行日 令和元年9月10日
発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)
発行責任者 澤田 僚 一
連絡先 大山崎町歴史資料館内
TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289
URL <http://www.kyoto-ofg.org/>

大山崎町とお箏(コト)の魅力

「お箏伝承の会 Koto Chika」 本部 千賀

3年前に多くの誰もが経験される親の介護から卒業し、農業からも退き時間が出来ました。今まで以上に色々な事に挑戦したく、人生一度きり、お声を掛けて下さることはチャンスと捉え、今まで長年携わってきた更生保護ボランティア活動に加えて、大山崎町商工会女性部長を何もわからないままお引き受けいたしました。女性部の活動を通して大山崎町の魅力を再確認させて頂きました。

町には沢山の宝があります。言うまでもありませんが、国宝の茶室待庵(妙喜庵)・油の神様離宮八幡宮・宝積寺・山崎聖天・聴竹居・大山崎山荘美術館など。また自然では天王山と数え切れません。この素晴らしい町を紹介し案内して下さる「ふるさとガイドの会」の皆様との出会いも私には宝になっています。

大山崎町の方々を知れば知るほど、ここにもこんなに素晴らしい方、ここにもと、人材も豊富です。スポーツマン・音楽家(バイオリン、二胡、篠笛、ピアノ、声楽、ハーブ等)・陶芸家・書道家など、またボランティア活動に携わっておられる方も多いです。

ふるさとガイドの会・竹林ボランティア・ボランティア連絡協議会等々(地形が)ハートの町にふさわしく愛も一杯です。又昨年から来年開催される東京オリンピック・パラリンピックに向け、自称「オリンピックもりあげ隊」として乙訓商工会女性部や輝く女性応援乙訓会議のメンバーも巻き込み「東京五輪音頭2020」を色々なイベントで踊っています。大山崎町音頭保存会の会員でもあり、踊ること大好きで、踊ることでも繋がりが広が

っています。踊ることも大好きですが、私の一番やりたいことはお箏の伝承です。コトを表す漢字によく“琴”が使われていますが、これは厳密には柱(じ)を使用しない楽器のことで、例えば一絃琴・たて琴などを表します。一般に「コト」と呼ばれる十三絃の楽器が箏(コト)であり柱を立てて演奏します。

箏(コト)は常用漢字に含まれていないため“琴”の字を当てられることが多いです。今から1300年程前中国より伝わった箏は時代を経て変化しながら現在まで受け継がれています。日本の伝統楽器お箏(コト)を、その素晴らしい音色を絶やしたくない思いで、海外での日本文化祭での箏の演奏、日本でのコンサート活動、7年前には地元でもっと伝えていきたいと子供たち中心に「お箏伝承の会」を発足し、公サ連まつりやイベントで演奏したり、学校や施設に出前演奏と、お箏の音色を子供たちと共に届けています。

又昨年から防災のため開局されたFMおとくに86.2に「お箏伝承の会 Koto Chika」として月曜日8:00から15分ではありますが番組を担当し、お箏の音色のせて大山崎町に伝わる昔話や大山崎町の情報を発信しています。「ふるさとガイドの会」の皆様には昔話を何度か担当して頂き個性溢れる名声優ぶりを発揮して頂いています。人と人の繋がりが大山崎町から乙訓へ京都府へと広がっています。

多くの皆様に感謝しながら少しでも多くの方にお箏の魅力を知ってもらい次世代へつなげていけたらと思っています。これからも素晴らしい出会いがありますように。



7月10日～9月9日までの活動実績

1. 主なガイド
- 7月13日(土) アウトドアOB会 13名
 - 7月13日(土) アーバンライフハイキング 10名
 - 7月24日(水)～25日(木) 夏休み子ども歴史教室支援
 - 8月5日(月) FMおとくに出演
 - 8月17日(土) 南円明寺ヶ丘子連協「出前ガイド」54名
 - 8月24日(土) 下植野南町内会「出前ガイド」64名
 - 9月5日(木) 生駒市観光ボランティアの会交流会 16名
2. 会の行事など
- 7月18日(木) 学習会「日本神話と酒解神社」 42名
 - 7月25日(木) 古文書学習会 29名

活動予定

- 主なガイド、行事予定
- 9月12日(木) 福知山観光ガイドの会 1班
 - 9月16日(月) 神戸須磨高倉台悠遊クラブ 2班
 - 9月17日(火) 備中高松城公園資料館 2班
 - 9月18日(水) シャープ(株)歴史探訪の会 2班
 - 10月1日(火) いきいきサロン南の会「出前ガイド」3班
 - 10月10日(木) 鏡田おしゃべり会「出前ガイド」1班
 - 10月19日(土) 秋の天王山ウォーキング 全班
 - 10月26日(土) 大山崎町政策総務課企画観光係 3班
 - 10月29日(火) 五箇荘郷土史研究会 4班
- ☆大山崎町歴史資料館企画展 10月19日(土)～12月1日(日)
「国衆からみた光秀・藤孝」一丹波・乙訓と織田権力一

7～8月ガイド実績

	一般ガイド		歴史資料館		おおやまざき・なび		合計	
7～8月	11件	177人	166件	375人	0件	0人	177件	552人
令和元年度累計	47件	1,379人	450件	1,019人	77件	187人	574件	2,585人

夏休み子ども歴史教室

茶杓をつくらうに参加



7月24日(水)、夏休み子ども歴史教室の茶杓づくりを支援しました。事前説明会で削りの体験をしましたが竹が堅くて相当な力が要ることを知っていました。さて小学生にはナイフの持ち方、刃の有効な箇所、力を入れ具合等簡単に削れない様で、代わって削ってあげたい!と思いつつも子供は自分で体験することで一生ものになると心で応援!

茶杓をつくる前に、資料館で『待庵』を見学。福島館長から「待庵は国宝です。これは何処の市町村にあると思いますか?」と子どもに尋ねた。子ども達はすぐ「大山崎」と答えた。私はガイド新米ですが、これに感動!さすが大山崎っ子。私もガイド知識を真剣に勉強せねばと感じました。

茶杓づくりの進行具合は、どの程度まで削れば良い

のか?図面には幅が示されている。小学生は製図・図面寸法が分かるのかなあ~と思削る幅を両サイドから何ミリと教えました。



それと櫛先の丸みも小学生には難しいと思丸く削る手助けをしました。後残念なのは、時間が短くまた、近くにノコギリが無かったので適当な長さで丸めたため少し長すぎたようだ。

私は初日のみの参加だったので、翌日の方に修正を期待しました。そして利休形茶杓は左が少し下がっているということなので、それも心残りでした。お茶の作法等も先生に教えていただき、なにも知らなかった私ですが色々勉強になりました。

良い体験が出来、今後のガイド活動に活かしたいと思います。(4班 山本 復一 記)

会員学習会

鳥居前古墳の学習会を終えて



6月19日教育委員会事務局の古閑・角両氏の案内で生い茂った雑木を掻き分け標高90mの墳丘まで登り、埋葬施設等の発掘調査の解説を聞きました。

葺石や石室の一部を思わせる石片はあちこちに残っていましたが、天井石は発掘当初から消えていたとのこと。西暦200年前後に中国で作られた銅鏡が200年後のこの古墳にどのような経過でやってきたのか、1600年前の人々が、どのようにして古墳を作ったのかロマンを掻きたてます。下植野南遺跡あたりに住んでいた人々や淀川を遡ってきた人々の目に天王山を背にする古墳の雄姿は、権威の象徴としての役割を充分果たしたことでしょう。

嬉しいことに数年後には全長54m(後円部径42m)の前方後円墳が復元され1600年前の人々と同じ光景を私達も眺めることができるのです。

ガイドの会としてこの感動をお伝えし来訪者に喜んでもらえる日が楽しみです。

(1班 生嶋 省子 記)

あちこち学習山歩

徳川家康伊賀越えの道



5月27日(月)晴天、参加者17名、朝早い出発でした。JR宇治駅からバスを乗り継いでガイドさんとバス停維中前で合流。

永谷宗円生家の佇まい 「家康が通ったと言われる歴史的な道を辿るコース」天正10年6月2日本能寺の変が起り当時堺にいた家康は京への帰路の途中その事実を知り急ぎ領国三河へ帰るため、明智方や一揆の襲撃に怯えながら東へ進み木津川を渡り一行は現在の城陽市田辺を經由して宇治田原へ進んだ。

我々は黒豆坂を越えて茶畑、田んぼの風景を楽しみながら湯屋谷会館で休憩。抹茶アイスお茶を堪能しました。宇治田原は日本緑茶が生まれた所、茶業を営んでいた永谷宗円さんがお茶の製法を研究し、ついに我々が口にする色・味・香りに優れた緑茶を生み出したと…。復元された生家でお茶の接待と解説を受けました。伊賀越えはこれから信楽街道へと続きますが今回はここまで!是非次も参加したいと思いました。(3班 澤田 裕子 記)

会員学習会

日本神話と酒解神社



2班主催の学習会が7月18日(木)公民館2F講座室で行われました。テーマは「日本神話と酒解神社」で、レポート作成者の2班栃尾さんの解説をはさみながら2班全員が分担して読み進めました。日本神話は主に古事記や日本書紀の記述が基になっていますが今回の発表では天地開闢(てんちかいびやく)から初代天皇の神武天皇までに登場する神々が神話とともに紹介されました。一方、酒解神社の本殿は日本神話に出てくる大山祇命(オオヤマツミノミコト)と素戔嗚命(スサノオノミコト)が祭神です。

こうした神々がどういうふうに神話の中で伝承されているのか今回の学習で知ることができました。同時に、私たちが日頃お参りする多くの神社には日本神話に登場する神々が祀られていることを考えると日本神話を知っておくことも有意義なことだと思いました。(2班 吉岡 望 記)

トピックス

十七烈士の墓の修復

昨年9月の台風21号は大山崎町にも大きな被害をもたらしました。天王山中腹の十七烈士の墓も倒木により玉垣の一部が壊れたり、墓石や手水舎も損傷しました。復旧しようにも現場へ行くことすらできない状況でもあり、倒木の整理が始まったのは年が明けてからです。4月には天王山勤皇十七烈士顕彰会の会員や、呼びかけに応じた一般の人たちにより、玉切り丸太の運搬や周囲の清掃が行われました。

同時に復旧資金の寄付金募集も行われ、顕彰会会員はもとより多くの方々からの協力があり、予定よりも早く6月に玉垣や墓石、手水舎の修復復旧工事が終了しました。墓石等修復完成式が、10月20日(日)午後2時から現地で行われます。

(1班 三宅 秀輝 記)



台風21号による被害



修復された十七烈士の墓